

水木しげる関連事業と境港商店街 の地域マネージメント

【要旨】

全国を中心商店街は大都市を除いて、ことごとく衰退している。公共交通機関が充実していない地方ではモータリゼーションの直撃を受け、中小地方都市はその落ち込みが激しく、成功事例はほとんどない。模索している全国各地の取り組みの中で境港市は地元出身の著名な漫画家「水木しげる」氏の漫画キャラクター等を並べた通り「水木しげるロード」の整備、水木しげる記念館の建設並びに関連するソフト事業を含めた独自の活動を行い、新たな観光客の集客によって、全国でも希な活性化の成功事例として脚光を浴びはじめている。

今回はこの水木しげるロードに訪れる観光客に焦点をあて、観光振興の経済効果等について言及した。今回は水木しげるロードに面する商店街とその周辺の地域住民に焦点をあて、それらの事業活動が地域のマネージメントに果たしている役割を住民意識調査、訪問者の境港に対するイメージ調査などをもとにして検証した。その結果、水木しげる関連事業は新たな地域の独自性、アイデンティティを生みだし、魅力あるまちとして訪問者、居住者の評価を得る大きな要因になっていることが確認された。

地域の商店街の衰退という危機意識から、境港出身の水木しげる氏の妖怪漫画等を使って、かつて栄えた商店街に賑わいを取り戻そうという、この地域の独自性は他に例を見ないユニークなものであり、この取り組みの調査研究の必要性を強く感じて行ったものである。水木しげる氏の妖怪キャラクター等の題材がこの地域の歴史・風土・文化に内在し、それを事業として掘り起こし、また受け入れる体質がこの地域にはあったのである。

そして、地域住民、民間事業者、行政、それに全国の水木ファンなどが、それぞれの役割を上手に演じて、歯車がうまくかみ合い、成功事例といわれるまでになった。その経緯を調査研究し、今後の地域振興策の参考としてとりまとめたものである。

調査研究サブディテクター

澤田廉路

序 論

はじめに（背景）

境港は人口4万に満たない小さな地方都市である。しかし、古代の出雲文化圏の中にあり、北前船の寄港地で、また日本と大陸を結ぶ重要な拠点であった。その立地性からくる歴史的背景は社会的政治的背景と絡み合っており、有形・無形の地域文化を育み、地域のアイデンティティを形成してきたといえる。港を中心に栄えた境港の港に隣接して発展した商店街はある意味、境港の顔でもあった。海運から鉄道にその輸送手段が変化しても港に降ろされた物資を効率的に運ぶため、鉄道も同じ構内に乗り入れており、その影響を商店街としてはほとんど受けな

かった。

しかしながら、車社会の到来と港湾施設整備による港の移動や埋め立て地にできた工業団地、ロードサイドに進出する大型店などに商店街は対応しきれず衰退した。

そんな中、境港出身の水木しげる氏の漫画を使うアイデアが出て、商店街の歩道整備に利用することを、境港市役所の担当者が1991(平成3)年に提案した。この提案は最初簡単には受け入れられなかったものの、取り組みが1992(平成4)年にスタートし、1996(平成8)年の水木しげるロード完成式典を機会にさらに楽しく活性化を図ろうと、地元有志20数名によって水木しげるロード振興会が結成された。鳥取県、境港市、境港商工会議所の協力を基に、同会ではその後、商店街活性化基本計画(水木しげるロード街並み整備計画)もつくって実行している。

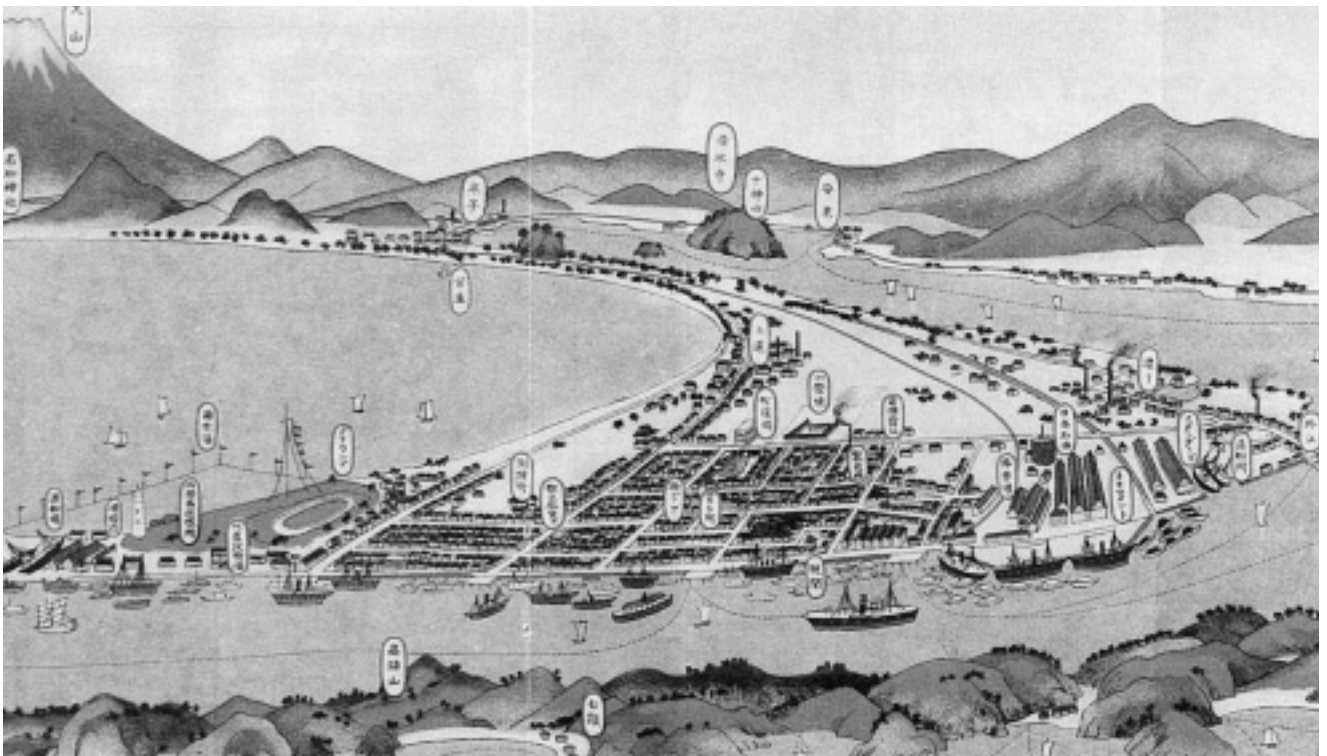
1 境港の成り立ちと商店街

1.1 境港の成り立ち

「出雲国風土記」には、夜見ヶ島として登場する境港は奈良時代までは海上に浮かぶ島で平安時代に陸続きになり、「大山寺縁起絵巻」に国引き神話の引き綱として弓ヶ浜半島が描かれている¹⁾。平安時代まで島であったとされる現在の境港中心部は、夜見 = 黄泉の国として、島根半島からの捲れる沿岸流によって死者の流れ着く場所で、靈験あらたかで、妖怪のまちとしてふさわしい、謂われある歴史性を兼ね備えている。

時代を経て、江戸時代中期より新田開発が始まるが、港として発展するのは、その後北海道、大阪間の千石船の寄港地となって以来である。新田での木綿生産とほぼ時を同じくして、日本海航路の主役となった北前船は木綿作の肥料としてニシン粕を北海道から大量に運び、代わりに綿・木綿を大量に買い入れた。江戸時代末期には、鉄の移出、藩米の積出港として栄え、大阪等の大都市と結ばれ、物資・文化の流入基地ともなり山陰一の港に発展し、明治3年に境村は境町と改められ、町制がしかれた。

図 1 境港絵図（大正15年2月） 境港共栄会



出所：さかなと鬼太郎のまち境港市ガイドマップ（2005版）

1.2 商店街の成り立ち

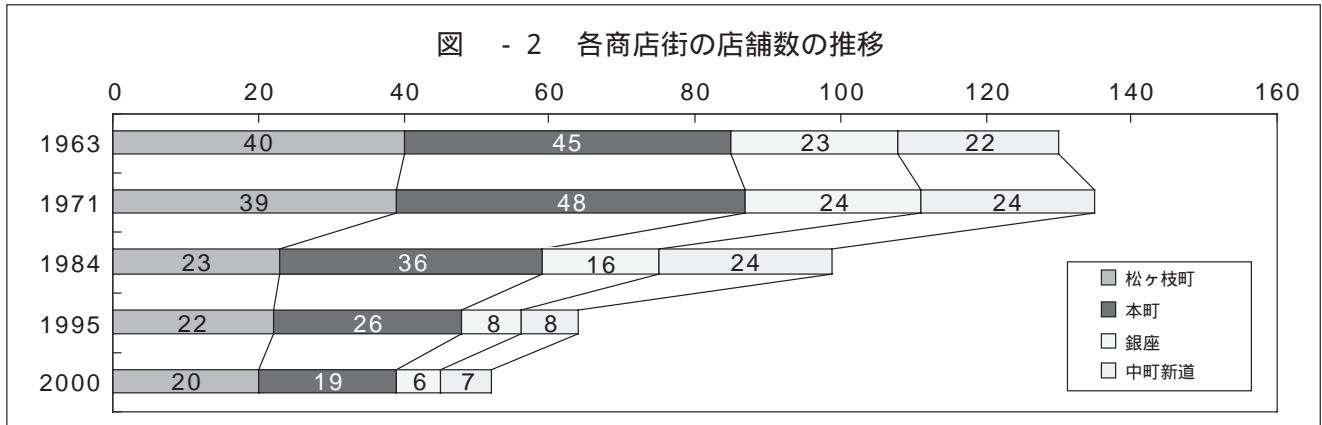
恵まれた良港としての境港の立地性は、物資の集散拠点として栄えたが単に物資だけでなく、北海道、下関、大阪との交易は、近代文明を迎え入れる基地でもあった。蒸気機関車も境港から入り、1902(明治35)年には境港から米子まで国鉄境線が開通して賑わい、境港駅からお台場に通じる町筋に、図 - 1 の絵図とおり商店が発生し、次第に店舗を増やしながら商店街として発展を遂げてきた。本町商店街をはじめ、松ヶ枝町、銀座、中町新道の4商店街によって構成され、境港市の商業の中心として明治、大正、昭和と繁栄してきた。

現在の商店街は終戦直前、1945(昭和20)年4月の軍

用船玉栄丸の大爆発事故で岸壁近くの火薬庫に飛び火し、旧境町の1/3が倒壊・焼失して被災し、昭和21年10月山陰地方で唯一戦災都市の指定を受け、戦災復興した街が原型となっている。

その後の社会状況の変化に対応し、商店街組合に加盟する店舗数は図 - 2のとおり1971(昭和46)年頃をピークに、その後減少を続け2002(平成14)年12月協同組合境港商店会は解散した。残っている境港本町商店街等も組合から任意団体に移行し、商店街としての実質的な活動は行っていない²⁾。

図 2 各商店街の店舗数の推移



出所：境港市四十五周年史³及び各商店街小売業意識調査報告書⁴

1.3 商店街の打撃

経済産業省「商業統計調査」の全国的な傾向と一致はするものの、境港の個人商店の減少率は大きい。詳細な

データのある1991（H3）年に対する、2002（H4）年の商店数は、全国、鳥取県全体、境港市とも約2割が減少している。

図 3 境港市の商店数と販売額

（単位：百万円）

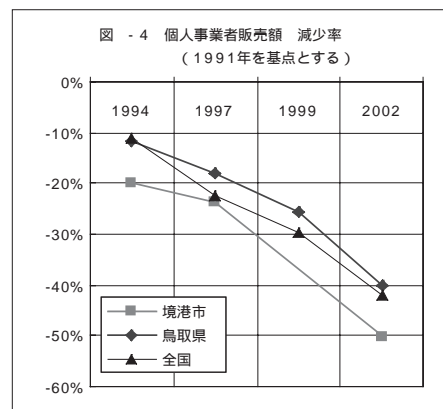
		商店総数	個人事業者	1～4人規模	販売額総数	個人販売額
1991(H3)	県	11,062	6,253	8,216	1,750,081	152,855
	市	732	424	539	144,701	16,399
1994(H6)	県	10,388	5,519	7,470	1,747,118	134,760
	市	671	365	469	142,436	13,144
1997(H9)	県	9,839	4,942	6,846	1,870,914	125,488
	市	618	313	415	137,216	12,494
1999(H11)	県	9,380	4,598	6,335	1,686,139	113,590
	市	-	-	-	-	-
2002(H14)	県	8,886	4,207	5,833	1,507,277	91,370
	市	585	274	5,833	130,496	8,166

出所：通商産業省「商業統計調査」

しかしながら、1991（H3）年に対する、2002（H4）年の商品販売額の減少は全国が23.2%に対し、バブル経済の影響が少なかった鳥取県は13.9%の減少にとどまり、さらに境港市の減少は9.8%と少ない。

ところが、これは郊外の大規模小売店による販売額の増加によって減少がくい止められているのであって、個人事業（商店）者の減少は非常に大きく、全国が42%の減少、鳥取県は40.2%の減少であるが、境港市は50.2%の半減を越える減少である。

図 - 4 個人事業者販売額 減少率（1991年を基点とする）



本論（境港の変遷と評価）

2. 境港商店街をとりまく地域環境

2.1 交通体系の変化と施設の移転

1.2 商店街の成り立ちで述べたように港湾、鉄道を有する物資輸送の拠点になったことで、境港は発展し商店街を形成したが、その後も港湾、鉄道、国道の整備といった物資輸送の交通体系の変化に商店街の盛衰も大きく左右され、図 - 2 のように商店数の大幅な減少を見た。1972（昭和47）年7月境水道大橋の開通、1974（昭和49）年6月の中浦水門の開通で島根県側とつながり松江・出雲の観光地と直結して商圈が拡大して賑わったこの頃が、商店街の賑わいのピークと思われる。1963（昭和38）年に調査されている⁵商店街の様々な業種構成は、1980（昭和55）年の住宅地図でも確認される。

商店街に最も大きな影響を与えた一つは、1982（昭和57）年に港湾施設整備にともなって水産物地方卸売市場が商店街に隣接する栄町から新しく港が出来た昭和町へ移転したことがあげられる。関連する施設も併せて順次移転してゆき、消費者も当然移った。港、卸売市場は規模が大きくなり、買物客が増え、境港全体から見れば良いことであったが、昔からの商店街は賑わいを失った。

2.2 商店街の窮状

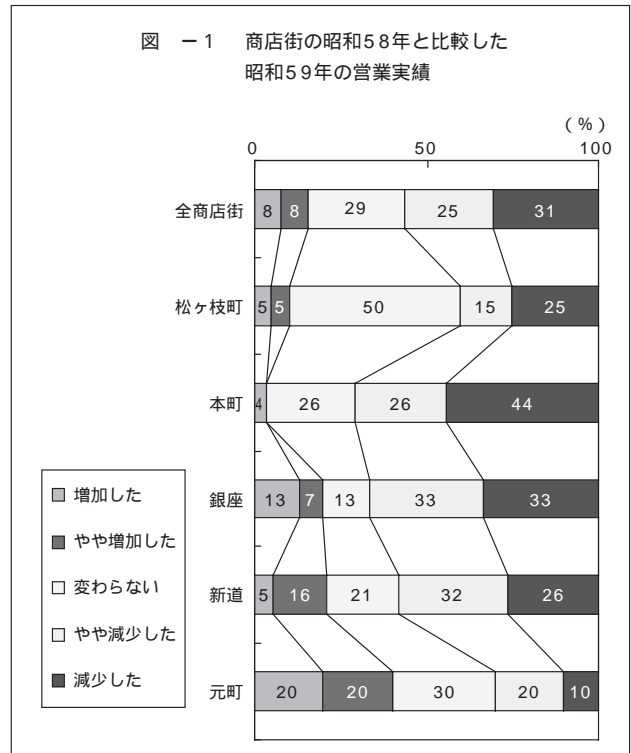
境港商店街連合会が1984（昭和59）年12月の調査⁶で前年の営業実績に対して、松ヶ枝町商店街では増加5%、やや増加5%に対して、やや減少15%、減少が25%。本町商店街では増加4%に対して、やや減少26%、減少が44%と、とても大幅な減少である。

銀座商店街では増加13%、やや増加7%に対して、やや減少33%、減少が33%。新道商店街では増加5%、やや増加16%に対して、やや減少32%、減少が26%と、中心商店街の減少傾向は約6割～7割にも達しており、しかも栄町に近い松ヶ枝町、本町の減少が極めて大きく、卸売市場移転の影響をものがたっている。

逆に卸売市場から一番遠く他の商店街と連坦せず、新たな地元大型店の出店のあった元町の減少は少なく、増加が4割もある。

商店街連合会等に対する要望、自由意見にも商店街の衰退に対して、交通規制の解除、駐車場対策等以外は具体的な要望は少なく、視察研修の必要性や商店街連合会の改革・進展の要望の他、鳥取県、境港市へ支援要請があり、先行きが見えない暗中模索の状況が見てとれる。

図 - 1 商店街の昭和58年と比較した昭和59年の営業実績



2.3 モータリゼーションの進展

モータリゼーションは年々進み、1985（昭和60）年8月の皆生バイパス完成を皮切りに、境港まで、順次整備されていく国道431号沿線にロードサイドショップが次々と貼りついていった。1993（平成5）年2月国道9号線から境港まで一直線に国道431号線が全線開通し、同時に国道に直結する高速道米子自動車道にも接続されて、高度高速交通体系への整備が急速に進んだ。

このめざましい交通体系整備の進展は大規模小売店の全国チェーン店やホームセンター、安売り家電ショップ、ファーストフード店等の乱立を加速させた。この時すでに、消費者の消費行動は既存の商店街から大規模小売店、ロードサイドショップへと移っており、商店街の存続には商店街の新たな業態変化が求められていたと見るべきだろう。

2.4 商店街の業態の変容

当センターが実施した2005年の境港市消費動向調査結果では、商店街利用者は郊外大型店舗の利用客の約14%で、また境港商店街経営者の約8割が新規の郊外型大型店の影響はないとしており、既に競合は終演し、商店街の存続には新たな知恵と手法とその実践が求められていたのである。

結局、水木しげる氏の漫画キャラクターを使った境港商店街の観光地化はキラキラした派手なものではなく、その新たな知恵のひとつであったといえる。昭和40年代の普通のまちの風景に妖怪のオブジェが自然にフィットし、肩のこらない普段着で行ける、ある意味、新しい観光地の様相を示したといえるかも知れない。

そんな様相に様変わりしつつある商店街で、近年売り上げを伸ばしているのは「水木しげる」の漫画キャラクターに対応した観光対応型店舗であり、特に伸びている4店舗は鬼太郎グッズなどの土産店である。

「人通りが増えて賑わっている」「停滞していたが近年賑わっている」と回答したのは、妖怪のブロンズ像のある水木しげるロードの沿道（大正町、松ヶ枝町）の店舗に集中しており、その他の店舗では「近年停滞が続いている」、「停滞が続いている」の割合が高く、停滞の度合いの差が明確に現れている。

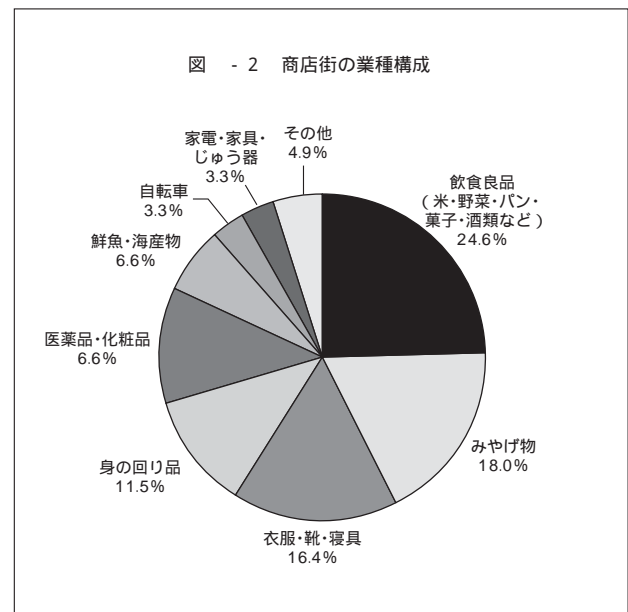
結局、水木しげるロード整備前後の売上げの変化をみると、地域密着型の店舗の売上げの増加は23.8%なのに対して、観光対応型店舗では68.8%の伸びをしめしている⁸。

町内ごとに細かく見ると、大正町、松ヶ枝町、本町までの妖怪オブジェのある商店では8～9割が増えていると回答している一方、中町、元町のブロンズ像のない商店では「変化がない」若しくは「減った」という回答を併せて元町で6割、中町では9割以上を占める。

業種の構成を見ると、店舗の61.5%が小売業で、飲食店が13.2%、理容・クリーニングなどのサービス業が11.0%で、その他の業種が14.3%である。

小売業の内訳を見ると、飲食物品、生活関連用品のほか、観光客向けのみやげ物店が2割近くを占めている。1984（昭和59）年12月の商店街調査で業種分類が明らかな衣料・靴・寝具の店舗数は平成16年2月には21店舗から9店舗へ、同じく身の回り品店は20店舗が7店舗、医薬品・化粧品店が11店舗から6店舗へと激減している。なお、みやげ物店の1984（昭和59）年のデータはない。

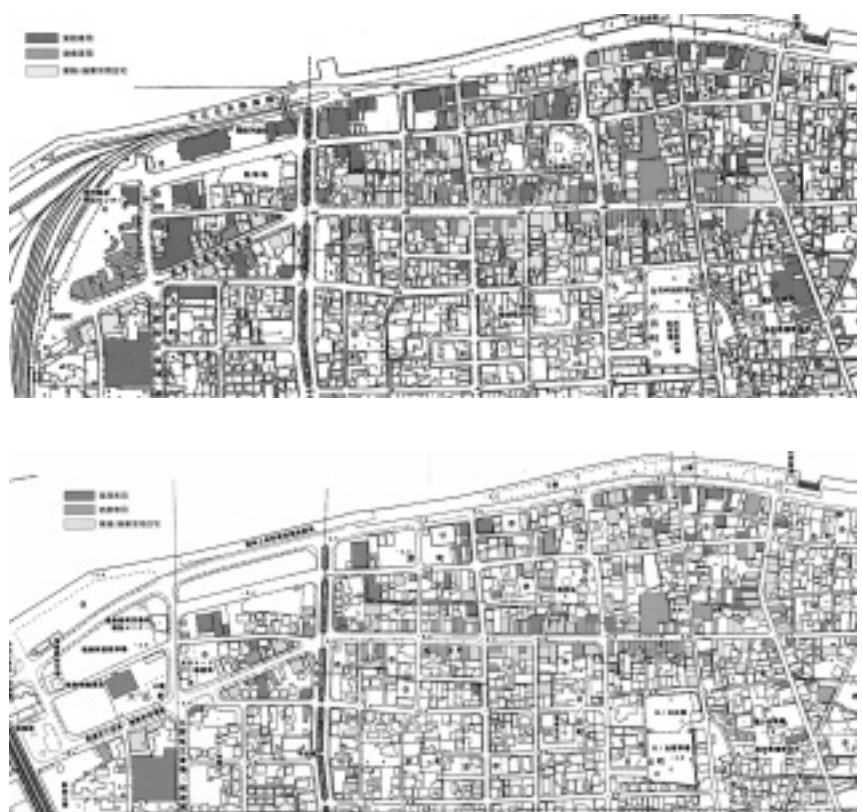
図 - 2 商店街の業種構成



2.5 商店街の土地、建物利用の変容

水木しげるロードの取り組みが始まる直前1994(平成4)年の土地・建物の利用状況を知るため、1993(平成5)年発行の住宅地図を調べ、同じく1993(平成5)年作成された国土地理院承認の1/2500の地図にこの地域の土地、建物の利用状況を分類し図示した。

図 - 3 業務、商業用途建物状況1992(平成4)年(上) 同 2006(平成18)年(下)



また、2006（平成18）年2月現在の状況を悉皆調査し、2002（平成14）年承認の1/2500の地図に示したものが各々状況別の下の図である。1992（平成4）年当時はまだ旧JR境港駅、卸売市場のあった水産会館等の痕跡が残り、業務用施設もかなり残っている。

（1）業務、商業用途建物状況

JR境港駅、隠岐汽船乗場、港湾労働福祉センター、鳥取県漁連事務所などの港湾施設が港の移動後も、平成4年当時、この地区には残っていたことがよくわかる。

商業施設も現在よりもむしろ多く、商店街の衰退をもたらした要因が、車社会の到来や大型店の進出だけでなく、港湾施設などの公的施設の移動要因が大きいことをこの業務、商業用途建物の変遷を示す図はものがたっている。

（2）駐車場、空地・空家状況

空地、空家は平成4年当時からすでに広くにわたって存在し、港湾施設の移転だけではなく、JR境港駅周辺の土地区画整理事業が平成3年から7年まで実施され、商店街とは反対側の駅西側を含む14.7haが整備された。

駅周辺はきれいに整備されたが、商店街周辺にも空き地、空き家が増えており、土地・建物の利用状況の図では、賑わい・活気が生じた様子をうかがい知ることは出来ない。

3. 境港市の評価と水木しげる関連事業の評価

3.1 評価の方法

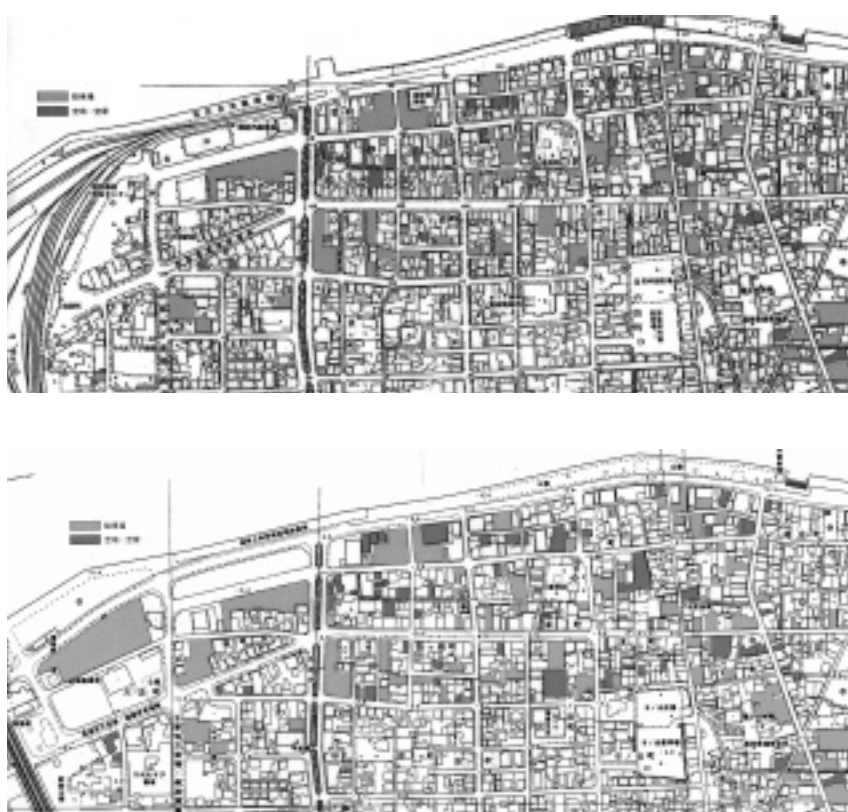
国土交通省中国地方整備局が2003(平成15)年1月～3月実施した広島市、岡山市を除く中国地方の主要25都市(鳥取県では鳥取、倉吉、米子の3市)の魅力度調査としておこなった項目にあわせて、2006(平成18年)2月に境港市においても実施し、他都市との比較も含めて評価を行った。

評価の内容は きれいである。 活気・賑わいがある。

便利である。 憩い・潤いがある。 安全・安心である。

の5つの視点から評価した。それを、さらに細かくそれぞれ6～10項目を設定した。また、境港市独自の視点として、水木しげる関連事業について、訪問者には11

図 - 4 駐車場、空地・空家状況1992(平成4)年(上) 同 2006(平成18)年(下)



項目、居住者には22項目の質問を用意し、いずれも5段階評価で実施した。

3.2 境港市の評価

(1) 総合的評価

境港市の総合評価を中国地方25都市と比較すると、訪問者の評価ではほぼ平均値に近い3.0で、鳥取市(3.5)、米子(3.2)に比べ劣る。「便利さ」が若干平均値よりも劣るものの、「きれい」「憩い・潤い」では平均を上回る。居住者の評価では「便利さ」「活気・賑わい」「安全・安心」が平均値よりやや高く、「憩い・潤い」がやや低い。総体的に人口規模が小さいと評価が低くなる相関関係⁹にあって、境港市は健闘しているといえる。

(2) 項目別評価

きれい

「公害が少なく空気や水がきれい」とする訪問者からの評価は3.4で平均値よりやや高い。この項目は10万人を越える都市では低くなりがちだが、評価が比較的高い3～5万人都市の平均値3.6より劣る。地元居住者の評価はそれ値に近い3.5である。

「まちの顔になる通りがある」は逆に10万人以上都市では高く、5万人以下の都市では低い傾向にあるが、境港の場合水木しげるロードの効果で訪問者の評価は3.5、

居住者の評価は3.7と高く、5万人以下の都市の平均3.0はよりかなり高い。

活気・賑わい

「活気・賑わい」の評価は中国地方いずれの都市も低い。特に「商店街が賑わっている」との評価は都市規模によって差があらわれ、小さいほど厳しい。4万人に満たない境港市も例外ではない。訪問者の評価が2.5、居住者評価が2.4である。ちなみに3～5万人都市の訪問者の平均値は2.1、10～15万人都市は2.5、16万人以上の都市は3.1である。かつての賑わいを知る居住者の評価は極めてきびしく25都市全体平均で1.7である。低いように思える境港市の評価（訪問者2.5、居住者2.4）も相対的にみれば健闘しており、県内の他3都市（訪問者：鳥取、倉吉2.2、米子1.6）（居住者：鳥取1.8、倉吉1.7、米子1.5）に比べてもかなり高い評価で、水木しげるロード整備効果の表れと考えられる。

「地元の特産品があるまち」でも、境港はカニ、魚のイメージが強く、訪問者の評価は3.8と高い。「市民のエネルギーが感じられまち」は訪問者、居住者とも全体の平均値に近く、それぞれ2.6、2.4である。

便利

「道路や交通の便利さ」についてはやはり大きい都市に比べ境港の評価は低く、訪問者の評価は2.9である。これは中国地方25都市の平均値2.8に近く、3～5万人都市の平均値2.7より高い。この境港の評価は鳥取、米子の3.6、3.8にはおよばないが倉吉の2.6より高い評価である。また、居住者評価では高速道路にアクセスしていない鳥取、倉吉の評価2.3に比べて高く3.3だが、米子の3.6の評価ほどではない。

「観光地や駅の周辺のホテル・旅館の充実」では、宿泊施設の乏しい境港市の評価は低く2.4で、中国地方25都市平均の3.1を大きく下回り、米子4.4、鳥取4.0、倉吉3.6に比べてもかなり低い。

憩い・潤い

「山、川など自然が豊かなまち」の境港市の評価は訪問者3.6、居住者3.1である。県内他都市が訪問者より居住者の評価が高いのと逆の結果で、訪問者の高い評価を受けているといえる。また「観光資源に恵まれているまち」では訪問者3.3、居住者2.9の評価で、訪問者の評価の高い倉吉の4.0に及ばないものの鳥取3.2、米子2.4に比べ、訪問者の評価が高い。

「楽しく回遊できるまち」では訪問者評価2.9、居住者2.6でいずれも平均値より評価が高く、居住者の2.6は県内の3都市いずれよりも高い。

「人のよさや優しさの感じられるまち」の評価は訪問者が高く3.4で、居住者は3.2である。中国地方25都市の訪問者の平均値は3.0で、同じく居住者は3.2である。

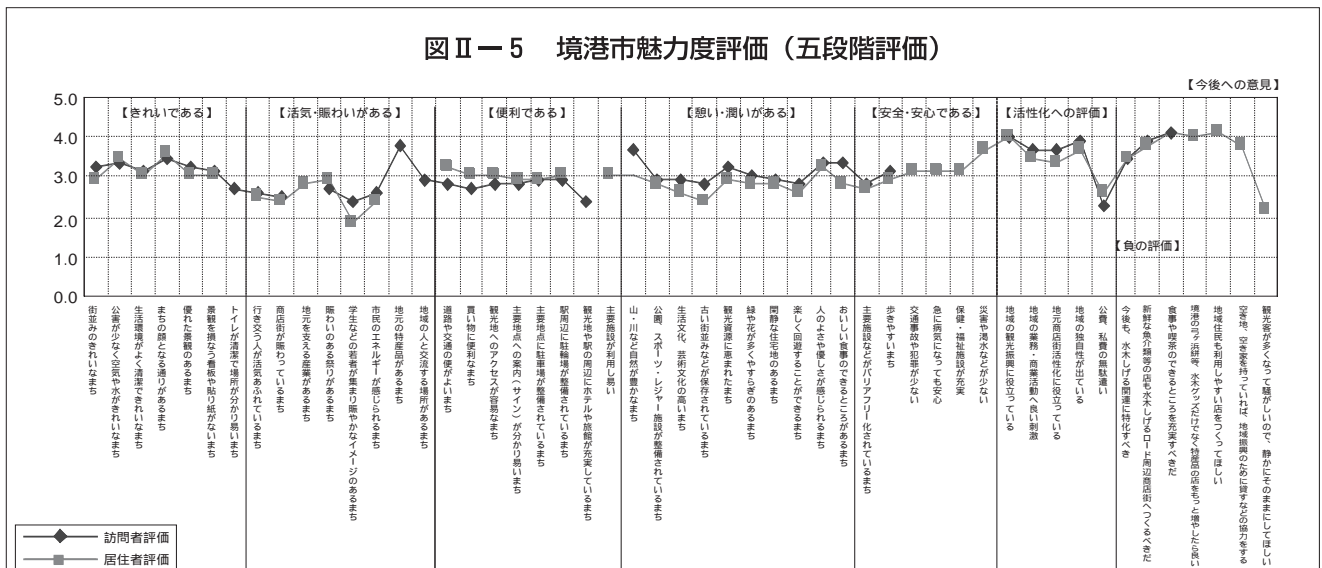
安全・安心

訪問者の項目は2項目だけであるが「歩きやすいまち」の評価は高く3.1、バリアフリー化は平均値と同じ2.9である。「保健・福祉施設の充実」など医療福祉関係はほぼ平均値の3.2前後である。

(3) その他自由記載欄から

詳しい項目別ごとの評価をみても宿泊施設の充実や便利さ等の評価が低い。自由記載の意見でも「食事や買物の便利さ」への要望が多かった。しかし、「まちの顔」となると通りや特産品のあるまち」としての評価は「水

図 - 5 境港市魅力度評価



木しげるロードがある」、「カニがある」などと具体的に書かれ、水木しげるロードが広く知れ渡り、名実ともに地域の顔になってきていることがよくわかった。

「活気・賑わい」については高い評価点ではなかったが、他都市に比べ相対的には高い結果で、水木しげる関連事業が及ぼしている地域イメージの向上は訪問者、地元居住者のいずれでも評価に良い影響を与えているといえる。

3.3 水木しげる関連事業の評価

境港市に対する訪問者、居住者の評価はともに総合的に高いものであったが、これは1992（平成4）年からスタートした水木しげる関連事業によるところが大きいと考えられる。

そこで、水木しげる関連事業についての評価を境港市独自の対象として実施した。評価は都市の魅力度調査と同じく5段階とした。

まず、地域の活気・賑わいを生み出している「地域の観光振興に役立っているか」については、訪問者4.0、居住者4.1とかなり高い評価をだしているが、「地域の業務・商業活動に良い刺激」では訪問者が3.8、居住者が3.5で、「地元商店街活性化に役立っている」との評価はいずれもやや下がり、訪問者3.7、居住者3.4の評価となっており、居住者の評価が少しきびしく、予想ほど高い評価とはならなかった。

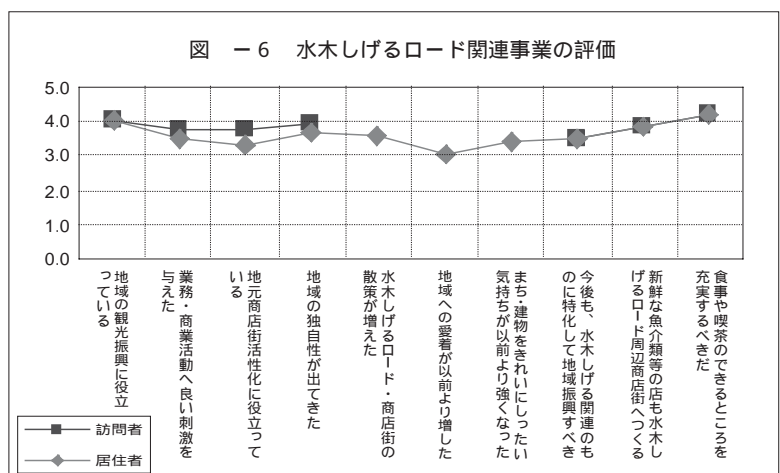
地域のアイデンティティともいえる「地域の独自性」、「地域の自信」の形成については、

高い評価で「地域の独自性がでている」では訪問者が4.0、居住者が3.7の評価である。しかし、「地域が自信を持ち始めている」と感じられるかどうかの訪問者の評価はやや下がり、3.5であった。

逆に負の評価である「公費、私費の無駄遣い」については、そう思わないとするものが訪問者で61.4%もあり居住者ではどちらでもない普通とする回答が多く45.6%であったが、無駄ではないという事業に対して賛同的な意見の合計は40.5%で、併せて9割近い人に受け入れられているといえるのではなからうか。ただ、逆に否定的な考えの居住者が約1割いることが明らかとなった。

また、「地域の自己満足にすぎない」については、訪問者だけの評価だが、どちらともいえないとする意見が約半数で、自己満足だとする者が約3割で、そうでないとする者が約2割であった。

図 - 6 水木しげるロード関連事業の評価



水木しげる関連事業のこれまでの経緯は図 - 7のとおりである。

図 - 7 水木しげるロード関連 年表

年度	月	日	主な内容	ブロンズ	
				設置	累計
H元(1989)			「緑と文化のまちづくり」としての取り組みがスタート。「水木しげる、伊藤ゆう原画展」、「緑と文化のまちづくりフォーラム」開催等を通じて水木しげる氏と境港市の接点が深まる。		
H3(1991)			境停車場線協議会で商店街活性化のため、道路整備について検討		
H4(1992)			水木しげるロード整備事業開始	6	6
H5(1993)	7	18	水木しげるロードオープン式典・除幕式	17	23
	10		初代「鬼太郎列車」の運行開始(JR西日本)		
H6(1994)	7	10	市内各郵便局で妖怪消印のサービス開始	17	40
	9	8	鳥取県景観大賞初代大賞を受賞		
	2	23	JR境港駅リニューアルオープン		

H7(1995)	12	5	建設省「手づくり郷土賞」を受賞	31	71	
			市報別冊として妖怪ガイドブックを発行(妖怪ガイドブックを再編集したものを観光協会が発行)			
H8(1996)	8	7	日本交通のバス車体に鬼太郎イラスト登場(現在、高速バス5台、貸切バス8台)	9	80	
		24	水木しげるロード全体完成式典			
		25	第1回世界妖怪会議(文化ホール)			
H9(1997)	6		みなとさかい交流館オープン		80	
		10	建設省「手づくり郷土賞」(2回目)を受賞			
		12	~9/28 夢みなと博覧会で「鬼太郎ワンダーシアター」出展			
		26	第2回世界妖怪会議(夢みなと博覧会会場)			
H10(1998)	5		「水木しげるロード振興会」が発足。妖怪スタンプを実施		80	
		27	境港市観光ガイドHPリニューアル(H9より設置)			
H11(1999)	1	1	妖怪神社(株式会社アイズ)	1	81	
		24	妖怪ポスト設置(郵政省)			
H12(2000)	5	~	鬼太郎他の着ぐるみで水木しげるロードを歩き、魅力度向上(~現在)	2	83	
		8	26			鬼太郎イラスト列車(JR西日本)
		10				~12月 鬼太郎に手紙を書こうキャンペーン(境港郵便局)
		12	28			鬼太郎の塔(境港海陸運送)
H13(2001)	3		妖怪大壁画(境港海陸運送)		83	
		7				~8月 妖怪ふるさと祭り((株)アイズ)
		8				妖怪霊在月イベントとして妖怪盆踊り、妖怪灯籠等を実施
		3				印鑑証明や住民票等の偽造防止の透かしに妖怪を使用
H14(2002)	8		妖怪ジャズフェスティバル(第1回)	3	86	
		10	26			妖怪フェスティバル・世界妖怪会議開催
		3	3			悪魔くんシリーズからブロンズ像を3体設置
		3	8			水木しげる記念館開館
H15(2003)	6-11		水木しげる記念館開館波及効果調査(境港市・とっとり総研)		86	
H16(2004)	11	22	妖怪ブロンズ像設置委員会がブロンズ像増設に1体100万円でスポンサーの全国公募を開始。	12	98	
		1-3				商店街経営者調査にあわせ、水木しげるロード来訪者調査を実施(境港市・とっとり総研)
H17(2005)	4	15	公募ブロンズ像16体完成(松ヶ枝町)	21	119	
		22	境港市観光協会が「第12回優秀観光地づくり賞」を受賞			
	6	16				ロードのブロンズ像等を紹介した「水木しげるロードの妖怪たち」を境港市観光協会が発行
						公募ブロンズ像7体完成(本町、大正町)
	7	15				境線観光路線化事業により境港駅前にブロンズ像4体設置
						水木しげる氏を招き、妖怪ブロンズ像入魂式、妖怪大行進、駅前ブロンズ像除幕式を実施
		19				映画「妖怪大戦争」の全国8月封切り前に、主役の神木隆之介他、出演者等が水木しげる館に来館し、記者会見
	8		水木しげる文庫開店((株)千年王国)			
	8	28	水木しげる記念館、来館者50万人を突破			
	10		公募ブロンズ像3体完成			
	11	3	JR境線観光路線化完成・序幕セレモニー米子駅で開催(16駅の装飾、車両デザイン、キオスクのリニューアル)			
	12	27	公募ブロンズ像1体完成(麒麟獅子)			
	1	19	鬼太郎フェリー就航(隠岐青年会議所他)			
	2	19	ねずみ男列車運行開始			
3	8	鬼太郎「とっとり妖怪観光大使」任命式				

出所：2004境港市通商課提供資料に加筆修正

結 論

4. 今後の展望

4.1 地域の独自性

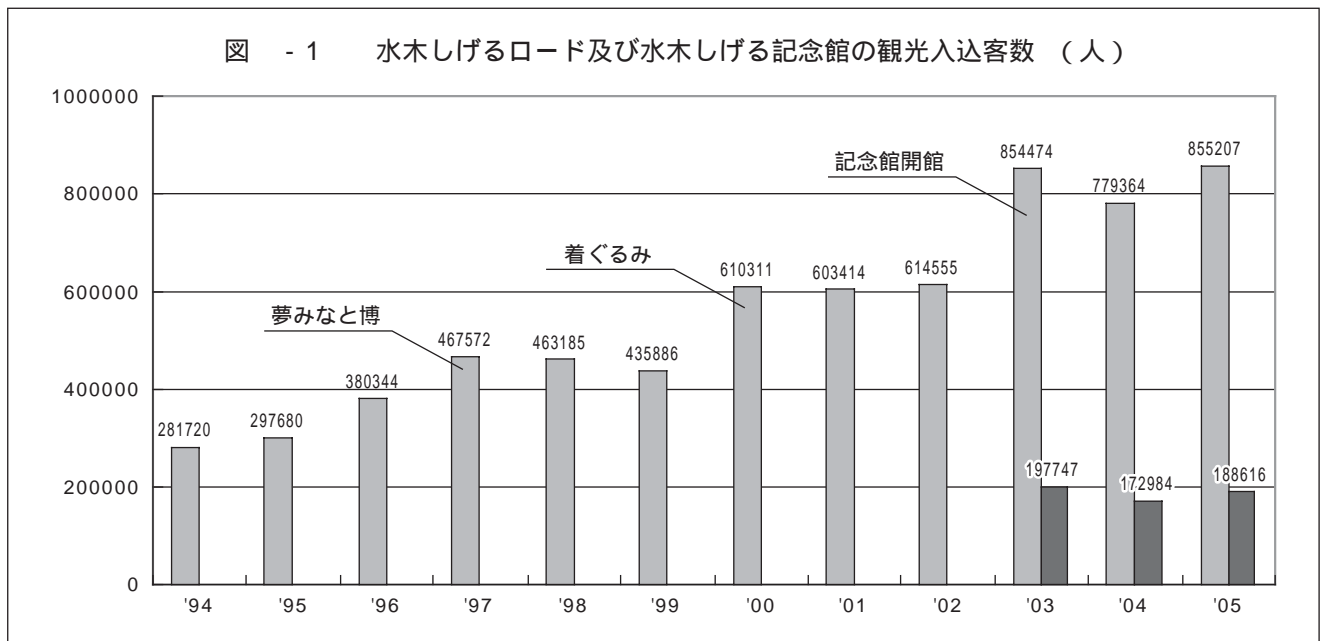
境港の水木しげるロード関連の取り組みにより「地域の独自性」といった観点からの評価が非常に高かった。地域の独自性、個性とはいったい何かということなかなか難しいが、簡単にいえば他の地域ではあまりやっていないもの、めずらしいものということだろう。そういったユニークな取り組みとして、訪問者も居住者も水木しげるロードのオリジナリティを買っていると思われる。地域の独自性はその土地の歴史や文化、自然景観から引き出されることが一般的には多い。また、独自といった意味で、その地域出身者や縁の著名人の記念館といったものは結構ある。境港も水木しげる記念館を単につくった

だけなら、それほど個性的でもユニークでもなかった。

しかし、境港の場合は「水木しげるロード」という誰でもいつでも無条件で、しかも無料で誰のこともなしに散歩できる空間に水木しげる漫画のキャラクター等のブロンズ像を設置していった。しかも、6体から始まったブロンズ像は妖怪マニアでもある水木しげる氏に吸い寄せられるように全国各地の妖怪も加わり119体もなっており、水木しげるロード全体が妖怪たちの生活空間のような様相になってきている。

水木しげる記念館はその関連の一大事業として、水木氏自身の多大な協力を得て、水木しげるロードの整備開始からちょうど10年目に完成した。水木しげるロードと一体となって様々なイベントを絡ませながら、着実に観光入り込み客数を図 - 1 のとおり伸ばしてきた。水木しげる記念館も翌年以降の開館効果反動による観光入込客の減少も少なく、2005（平成15）年8月、50万人の来館者を突破した。

図 1 水木しげるロードおよび水木しげる記念館の観光入込客数 (人)



出所：境港市通商課資料より作成

2001(平成13年)からは毎年8月に妖怪霊在月として、妖怪探検ツアー、妖怪灯籠、妖怪ジャズ等、妖怪にかこつけてイベントもするようになった。(図 - 7参照) 境港出身の著名な漫画家水木しげる氏個人のカリスマ性によって地域に眠っていた妖怪を呼び起こすように、地域の潜在的な個性を上手く取り出し、他で真似できない地域再生の足掛かりをつくったといえる。

しかしながら、境港という地域が持っている地域なが

らの独自性は鬼太郎などの「妖怪」ではないと否定的な考えを持つ地元の人も一方にいる。地元居住者の調査で「地域の独自性」の評価は3.7と高い評価だったが「観光客中心で地元住民のための水木しげるロードになっていない」とする負の評価が3.0であったことは、課題のあることをもものがたっている。境港の地域で自分達の地域の自慢のものは新鮮な魚、カニなど魚介類だ、といった意識は強い。事実、境港は「地元の特産物のあるまち」

と訪問者からも3.8という高く評価を受けているのは、それら魚介類によるところが大きい。

地域の個性、独自性とは、その地域ならではの有形・無形の文化、産業の総体を指し、目に見えるものばかりでなく、地域の居住者にとっては空気のように必要だが気がつきにくいものである。水木しげる氏のつくり出している、水木ワールドは、彼自身が武良茂（本名）として、景山ふさ（のんのんばあ）さんから聞いた話、ガキ大将で過ごし経験した境港が重要な原点となっている。そこには、境港の歴史・文化や自然が精神的なものも含んで織り込まれ、見えないものを妖怪として現出させている奥深さがある。ここに、水木しげる氏が境港出身であるという以上の地域の独自性を含んでいるといえるのではなかろうか、また昭和40年代の面影を残し、ゆったりとした時間がながれる境港のまちの風情に妖怪たちのブロンズ像はよく似合っている。

4.2 地域のアイデンティティ

地域の独自性、個性は、その地域の特徴あるもの、特徴ある取り組みから生じているものといえる。同じような意味を持つ言葉として、地域のアイデンティティという言い方もある。一時、企業でもてはやされたCI（コーポレート・アイデンティティ）は企業のシンボルマークやキャッチフレーズの作成など企業イメージ向上の戦略手法であったが、それと同義の言葉である。地域のアイデンティティとは、CIが企業の一体感とか同一性を示すという本来の意味からすれば、地域の持つ一体感であり地域共有のシンボル性を指す言葉である。

であるならば、水木しげるロードに絡む様々な取り組みは、地域としての一体感のある取り組みとして醸成され、地域の積極的な活動として展開されれば、立派な地域のアイデンティティが確立されているといえる。「地域の独自性」「地域への愛着」といった評価がそれぞれ居住者で3.7、3.1であったことをどう見るかである。充分とはいかないまでも地域の個性やアイデンティティが醸成されていることは境港市への訪問者、地元居住者の評価に表れ、様々な活動の展開からもいえる。地域のアイデンティティは地域の個性と同じように地域の共同体の一員であると自覚する地域住民の活動によって磨かれ育てられるもので、造り上げ、また変っていくものではなかろうか。

ただ、地域のアイデンティティは、一般的な企業とちがって動かない地形や自然に根ざした静的な個性と水木ロードで展開されているような創造的な活動である動的な個性との両面性を持っている。地域の住民が自分の地

域のこととして主体的に動くとき地域は本当に動く。上意下達の強制的な圧力からではなく、地域住民が時の流れを読みつつ、地域にこだわりとかかわりをもって進めるとき、地域のアイデンティティが醸成され、育ち、確立されていくのではなかろうか。

4.3 地域マネジメント

「地域への愛着が増した」と評価した住民には、地域にこだわりながらかわって、「地域ことは地域で決め自ら実行しよう」とする意識が生まれ、「まち・建物をきれいにしたい気持ち比以前より強くなった」といった気持ちとなって評価（3.4）にあらわれている。かつて、商店街が衰退しはじめたころ、行政への陳情、要望に終始し、苦情不満のあったことが過去の書類に垣間見える。しかし、今や住民自らが行政をたよりにするのではなく、行政があとから一緒になって住民活動の推進を後押しする状態となっている。水木しげるロード年表からも読みとれるように、郵便局、JR、フェリー会社、もちろん地元境港市や鳥取県の行政も一体的にそれぞれの持ち場の役割を水木しげるロード関連にこだわった事業を行うことで果たしている。

関係団体や行政の後ろ盾があり、全国から水木しげるロードへ訪れる人が増えている現実があって、水木しげるロード関連事業に否定的であった人達の意識も変わりつつある。最初、「妖怪の像を並べて何になる。気味が悪い。」と反対していた人たちがいつのまにかいなくなった。いずれにしても「水木しげる関連事業」は衰退していた地域に新たな観光振興の要素を持ち込み、新たな地域マネジメントの手法として、2.4 商店街の業態の変容で記述したように商店街の業態変化を促し、この地域の集客力を増やし、賑わいを取り戻している。

水木しげる関連のこれらの事業活動は前回の調査で明らかにしたように、投資した事業金額を上回る経済波及効果を生んでおり、地域経済へも貢献している。このように、様々なセクターがお互いに多数の主体を認め合い一定のテーマ性をもって地域をつくっていくことで、地域をより愛し、地域をより大切にす相乗効果が生じるのではなかろうか。

境港に住む住民自らが、生きていくのが快適で、楽しく活気ある地域社会が築かれた時、地域の価値が向上されたといえる。これが、地域マネジメントのあるべき姿ではなかろうか。境港の水木しげるロード関連事業はまだ充分ではないもの、境港のあるべき地域マネジメントの望ましい姿の大きな要因になっているといえる。

4.4 まとめ（総合的考察）

境港は人・物資、情報の行き来する交易のまちで、城下町にありがちな保守的、権威主義的なところが少なく、新しいものに対する進取の気性に富むところである。それは、鳥取県へ、山陰へ、かつては日本そのものへ新しい文化、文明を取り入れる最初の窓口でもあった。そういった歴史的背景からくる地域気質が水木しげる漫画キャラクターの導入にも何らかの影響を及ぼしているのではないかと思う。

県庁（かつては藩）から遠く離れた位置関係がおのずと行政だのみでなく、自ら主体的に動かなければならないといった地域の自主性を促していたのかも知れない。しかしながら、行政も既存の事業に水木しげる氏の漫画キャラクターを取り入れ、さらに鳥取県の景観大賞や建設省（当時）の手づくり郷土賞といったお墨付きを与え、地元関係者が元気づけられ、事業が加速されたことも見逃せない。地元住民、民間事業者、行政、そして全国の水木ファンなどがそれぞれの役割をうまく演じて事業がすすめられ、軌道に乗って、境港市の顔、あるいは鳥取県の顔と今やなりつつある。

かつて栄えた商店街が公共施設の移転や様々な社会情勢によって衰えたが、この水木しげる関連事業の取り組みによって、妖怪ブロンズ像のある商店街では売上げを伸ばす商店も出始めている。妖怪ブロンズ像はまさに招き猫で、人を呼び、賑わいを呼び、経済効果を呼び、そして人々の豊かな感受性を呼び覚ました。

奇しくも、このとりまとめを書いている時、水木しげる氏の人気漫画の主人公鬼太郎が鳥取県の「とっとり妖怪観光大使」に任命され、その任命式がニュースで放映された。公共の電波で、無料で、境港や鳥取県を宣伝できる効果には絶大なものがある。微笑ましいニュースだが「妖怪のブロンズ像を並べて何になる」といったお堅い考えがあった時期からすれば、隔世の感がある。真面目だけの実直さからは、こんな遊び心のあるウィットに富んだ取り組みはできないであろう。

水木しげるロードの完成式典後、式典を準備した地元有志の一人は水木しげる氏へ「先生、ロードが完成してしまったら、これから何をすればいいか」と尋ね、水木氏は「遊べばいい!」と答えたそうである。

この境港の地域が水木氏の言葉どおり、遊び心にあふれたものになっているのは、水木氏のこの言葉、そして水木氏自身（水木プロ）が持っている著作権を広く地域の振興のためにオープンにいただいている寛大さにあることを最後に申し添えておかなければならないだろう。

遊び心がなければ、まちづくりは出来ないというのは私の持論であるが、地域の衰退を何とかしなくてはならないと真面目に義務感だけでコトにあたっても成果はなかなかでるものではない。地域の潜在的な資源を遊び心で持って見方を変えて探し、楽しみながら育てていけば、創造性豊かな快適な地域となっていくのではなからうか。

さらに今後、アンケート調査で高く評価されなかった点をいかに上手く、これらの活動とリンクさせていくかが重要なポイントになるであろう。時の流れに、妖怪のように変幻自在に身を任せながら、地域のアイデンティティも変身させ進化させれば、さらに望ましい地域マネジメントが実現していくのではないかと思う。

謝辞

境港市関連の資料提供では、前回と同じく境港市通商課の足立晴夫主任に大変お世話になりました。また、伊達憲太郎通商課長ほか他同課の職員を含む境港市役所の関係各課の方々のご協力をいただきました。

アンケートの配布、回収では地元自治会長さん、特に景山純雄自治連合会会長さん、本町自治会長の釘谷吉三さんには全体のお世話役を引き受けていただきました。さらに、地域の商店街の悉皆調査による地域の実態を地図に落とす作業、訪問者への聞き取り作業等は鳥取県建築士会西部支部の加藤文治幹事長さんをはじめとする有志の方々に御協力をいただきました。今回も現地では、水木しげるロード振興会会長の野々村久徳氏、鬼太郎音頭保存会会長の荒木千重子さん、鬼太郎茶屋の足田滋子さん、境家具の門脇京子さん、そしてアンケートに回答していただいた多くの皆様の御協力をいただきました。

集計作業等には当センターの酒本尚子研究補助員及び本田みゆきさん、山田雅一さんにお手伝いいただき、ようやく本論文を完成することができました。ここにみなさまに感謝の意を表します。

- 1 境港市「境港昔と今」(境港市1984(昭和59)年) p1-4
- 2 本町商店街会会長 釘谷吉三氏 談 2006.2
- 3 境港市四十五周年史(境港市 2001(平成13)年) p285
- 4 各商店街小売業意識調査報告書(境港商工会議所境港商店街連合会1985(昭和60年1月) p8
- 5 境港市四十五周年史(境港市 2001(平成13)年 p288-291
- 6 各商店街小売業意識調査報告書(境港商工会議所境港商店街連合会1985(昭和60)年1月 p13
- 7 (財)とっとり政策総合研究センター「境港市消費動向調査報告書」2005年 p28
- 8 (財)とっとり政策総合研究センター「境港市消費動向調査報告書」2005年 p41
- 9 (社)中国地方総合研究センター「季刊 中国総研No.33」

2005(平成17)年 p49-52

10 水木しげるロード振興会会長野々村久徳氏 談

参考文献

- 境港市『境港市史』(境港市 1986年)
 境港市『境港の昔と今』(境港市 1984年)
 境港市『境港市三十五周年史』(境港市 1991年)
 境港市『境港市四十五周年史』(境港市 2001年)
 境港市観光協会『水木しげるロードの妖怪たち』(境港市観光協会 2005年)
 水木しげる『ほんまにオレはアホやるか』(新潮社、2002年)
 水木しげる『水木サンの幸福論』(日本経済新聞社、2004年)
 義原敬『街は、要る』(学芸出版社、2000年)
 (財)とっとり政策総合研究センター『境港市消費動向調査報告書』2005年
 (財)とっとり政策総合研究センター『TORCレポート No.25』2005年
 (社)中国地方総合研究センター『季刊 中国総研 33』2005年
 田村 明『都市の個性とはなにか』(岩波書店、1984年)
 藤沢研二『コミュニティ力の時代』(水曜社、2003年)
 Charles Landry, THE CEATIVE CITY A TOOLKIT FOR URBAN INNOVATORS , 2000 (後藤和子監訳『創造的都市』日本評論社2003年)
 Dolores Hayden, THE POWER OF PLACE, 1995 (後藤春彦他訳『場所の力』学芸出版社2002年)

参考WEBサイト

境港市ホームページ

<http://www.city.sakaiminato.tottori.jp/>

境港市観光協会

<http://www.sakaiminato.net/>

水木しげる記念会館

<http://www.sakaiminato.net/mizuki/>

国土交通省中国整備局ホームページ(まちの魅力度評価の手引き)

<http://www.cgr.mlit.go.jp/machi-miryoku/index.html>